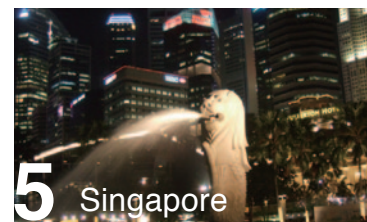
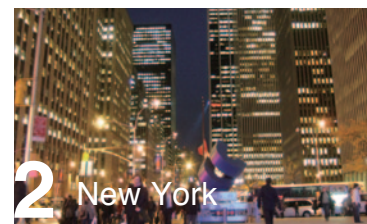


世界の 都市総合力 ランキング

Global Power City Index 2013

概要版



2013年10月

世界の都市総合力ランキング「Global Power City Index(GPCI)」は、地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける、いわば都市の“磁力”こそが『都市の総合力』であるとの観点に立ち、世界の主要都市の総合力を評価し、順位付けしたものである。

森記念財団都市戦略研究所は、2008年に初めて「Global Power City Index」をリリースして以来、財団のホームページやメディアを通じて精力的に世界に発信してきた。その結果、アメリカ、中国、韓国をはじめ、数多くの海外の国際シンポジウムに招待されることになり、その評価の高さを実証した。その間、世界を代表する数々の研究機関とも、都市の競争力をテーマに活発な

意見交換を行ってきた。

GPCI-2013年版は、全ての対象都市にて居住者アンケートを新たに行い、より最新のトレンドを反映した。また、幾つかの指標データの精査を行った。

さらに、これからの都市力を左右する新たな価値として、都市の物質的側面だけでなく、都市運営における効率性や正確・迅速さ、清潔感、安全・安心等、人間の感性に訴える「都市の感性価値」についても評価を試みた。

この結果により、東京や世界の都市が持つ魅力や課題を再認識できると同時に、都市の政策立案や企業戦略形成に役立てられることを期待したい。

※都市別の指標や分析についてより詳細に掲載した「GPCI YEAR BOOK 2013」を刊行予定。

Global Power City Index(GPCI)の特徴

1. 都市の総合力を分析し順位付けする調査研究として、日本初の取り組みである。
2. 特定分野(「金融」や「住みやすさ」等)ではなく、都市の力を表す様々な分野を対象として都市の総合力を評価したランキングである。
3. 世界を代表する主要40都市を選定し、都市の力を表す主要な6分野(経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス)と、さらに現代の都市活動を牽引する4つのグローバル・アクター(「経営者」「研究者」「アーティスト」「観光客」)ならびに都市の「生活者」という5つのアクターの視点に基づき、複眼的に都市の総合力を評価している。
4. ランキング調査結果から顕在化した東京の弱みを克服するための課題を明らかにしている。
5. 都市研究に関する世界的権威であるピーター・ホール卿をはじめとする学識者によるコミッティを設置し、各界の有識者の参画と、国際的な専門家によるピアレビュー(第三者評価)を得たランキングである。

Key Messages

- ◆ ロンドンは居住分野のスコアを下げたものの、他分野のスコア増加により、結果的に2位ニューヨークとの総合スコアの差を昨年から更に広げて、引き続き1位となった。
- ◆ 東京は4位を維持し3位パリとのスコア差を縮めたが、1位ロンドン、2位ニューヨークとの差が広がり、一方で、5位シンガポールとの差も縮小した。
- ◆ フランクフルトを筆頭にEU都市が回復傾向を見せ、北米都市もスコアを伸ばし、順位を上げた。
- ◆ 中国2都市の経済分野での上昇傾向は依然として顕在で、特に北京のスコアが伸びた。上海では、文化・交流分野や交通・アクセス分野のスコアが伸び、総合ランキングで北京を抜き12位となった。

1. 全体の傾向

GPCI-2013の総合ランキングにおけるトップ4都市は昨年と同様、1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位パリ、4位東京となった。

ロンドンは居住分野でスコアを下げたものの、経済、研究・開発、環境分野でスコアを上げ、結果的にロンドンとニューヨークの総合スコアの差は広がった。また、パリと東京が大きくスコアを落として2位との差が広がり、4位東京と5位シンガポールとのスコア差は縮小した。東京とパリとの関係だけで見ると、スコア差は昨年より縮小しており、東京での五輪開催決定を追い風に3位へのランクアップの可能性が出てきている。

総合ランキング5位以下で見られた動向としては、6位ソウルが5位シンガポールとの差を大きく縮めたことや、フランクフルト、ウィーンの順位上昇が挙げられる。特にフランクフルトは環境分野と交通・アクセス分野が伸び、総合ランキングは12位から10位へ上がった。

また、中国2都市については、いずれも経済分野での成長が顕著であり、特に北京は、経済分野において、順位は3位で変りはないが、当分野の1位2位のスコアが大きく下がっている中、スコアを伸ばした。上海は経済分野では北京に劣るものの、文化・交流分野や交通・アクセス分野でスコアを大きく伸ばし、総合ランキングでは14位北京を抜いて12位へ順位を上げた。

2. 分野別ランキング

経済分野:東京は昨年と同様トップだが、一部の指標が以前の円高時期の影響を受けて、トップの座を維持している面がある。一方、3位北京は「世界トップ300企業」で高スコアを得て、2位ニューヨークとの差を縮めた。また、ソウルが昨年の13位から8位へ順位を上げたが、「賃金水準」や「政治・経済・商機のリスク」などでスコアを伸ばしたことが要因である。

研究・開発分野:順位やスコアに大きな変動はないものの、ロサンゼルスが昨年の6位から4位へ順位を上げた。

文化・交流分野:昨年に引き続き、ロンドンが、ニューヨークに大差をつけトップを維持した。また、上海は「食事の魅力」、「買物の魅力」などのアンケートに基づく指標のスコアが伸び、22位から16位へと躍進した。

居住分野:「物価水準」、「賃貸住宅平均賃料」は昨年のドル安の影響により、一部の都市でスコアが大きく変動

している。ロンドン、ニューヨーク、東京はいずれもスコアを下けているが、トップ4都市の中で、パリのみ昨年と同様の高いスコアを獲得しトップを維持した。

環境分野:東京は昨年に引き続き1位を維持し、5位までの順位変動はなかった。フランクフルトは昨年10位から6位へ順位を上げたが、特に「再生可能エネルギーの比率」のスコアが伸びた。

交通・アクセス分野:フランクフルトが6位から3位へ順位を上げた。「国際線直行便就航都市数」、「国際線直行貨物便就航都市数」等で高いスコアを得ている。

3. アクター別ランキング

「経営者」:中国2都市が昨年よりさらに順位を上げ、上海3位、北京4位となった一方、東京は7位から9位へダウンした。

「研究者」:ロサンゼルスが昨年の7位から5位へ順位を上げボストンを上回った他、大阪が17位から13位へ順位を上げた。

「アーティスト」:ニューヨークが「文化的刺激」の要素でスコアを稼ぎ、5位から2位へ順位を上げた。

「観光客」:東京は「食事(選択肢や値段等)」、「買物(環境や値段、魅力等)」の要素で相対的に評価を下げ、6位から9位へ順位を落とした。

「生活者」:東京、大阪、福岡や北米都市の一部が「購買環境(物価、商品の得やすさ等)」の要素でスコアを落としたことによって、複数のEU都市の順位が上がった。

4. 都市の感性価値

都市で活躍するアクターの視点から見ると、必ずしも都市の魅力は物的なものだけに限らない。都市にいて、快適さを感じる、わくわくする、誇りに思う等の感情を想起させられるのは、各都市が「人間の感性に訴える力」を持っているからだと考えられる。そこで、この力を「感性価値」と定義し、GPCIの対象都市のうち10都市(バルセロナ、ロンドン、パリ、ウィーン、イスタンブール、シンガポール、北京、ソウル、東京、ニューヨーク)を対象として、今後の都市力を表現する新たな視点で評価を試みた。

また「感性価値」の観点から新しい評価を行うためのフレームとして、都市における「量・質の特性」では「空間構成」「活動」「空間運営」の3つの要素を設定し、同時に、都市における「価値観」では「普遍的な価値」「地域性・文化背景に左右される価値」「個人の価値観に左右される価値」の3つの要素を設定した。そしてこのフレームに基づき分析を行った。

GPCIの中のいくつかの指標グループを対象に、GPCIの評価軸と感性価値の評価軸を対比させながら分析を加えた。

結果、例えばGPCIの「国際交通ネットワーク」では、東京は他の海外主要都市と比較して国際線のネットワークが充実しているとは言えないが、感性価値の「空港における定時運航率」が高く、優れた運営能力を発揮しているなど、都市の物的側面だけでは評価することのできない新たな価値があることがわかった。

1.GPCI-2013の作成方法

1-1 GPCI-2013の策定体制

本ランキングは、ピーター・ホール卿 ロンドン大学教授を最高顧問(Principal Advisor)とし、竹中平蔵 森記念財団都市戦略研究所所長/慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所所長・教授 を委員長とする計5名により構成される委員会にて、ランキング作成過程の節目でのスーパーバイズを行っている。

分析は、市川宏雄 森記念財団理事/明治大学専門職大学院院長・教授を主査とするワーキンググループによる検討作業を重ね、各界の有識者からグローバル・アクター

の視点にもとづく助言を得ながらランキング作成を進めた。

なお、こうしたランキングの作成過程及び結果の妥当性については、2名の第三者評価員(ピア・レビューアー)に評価を依頼し、内容の確認及び改善点の指摘を受けている。

GPCI-2013はこうした体制のもと、最終的に取りまとめられたものである。

図1-1 策定体制



1-2 GPCI-2013の対象都市

図1-2 対象40都市



エリア	都市
ヨーロッパ	マドリード、バルセロナ、ロンドン、パリ、ブリュッセル、アムステルダム、ジュネーブ、フランクフルト、ベルリン、チューリッヒ、ミラノ、コペンハーゲン、ウィーン、ストックホルム、イスタンブール、モスクワ
アフリカ	カイロ
アジア	ムンバイ、バンコク、クアラルンプール、シンガポール、香港、北京、上海、台北、ソウル、福岡、大阪、東京
オセアニア	シドニー
北米	バンクーバー、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴ、トロント、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ボストン
中南米	メキシコシティ、サンパウロ

(都市の選定基準)

- 有力な既存都市比較ランキング(The Global Financial Centres Index、Worldwide Centers of Commerce Index、Cities of Opportunity)でベスト10に入っている都市
- 有力な国際競争力ランキング(World Economic Forum及び International Institute for Management Development作成)において競争力ベスト10に入っている国の主要都市
- 本ランキングを作成するコミッティまたはワーキング・グループメンバーから、対象都市として取り上げることが適切として判断された都市

1-3 ランキングの作成方法

図1-3 分野別ランキングの作成フロー

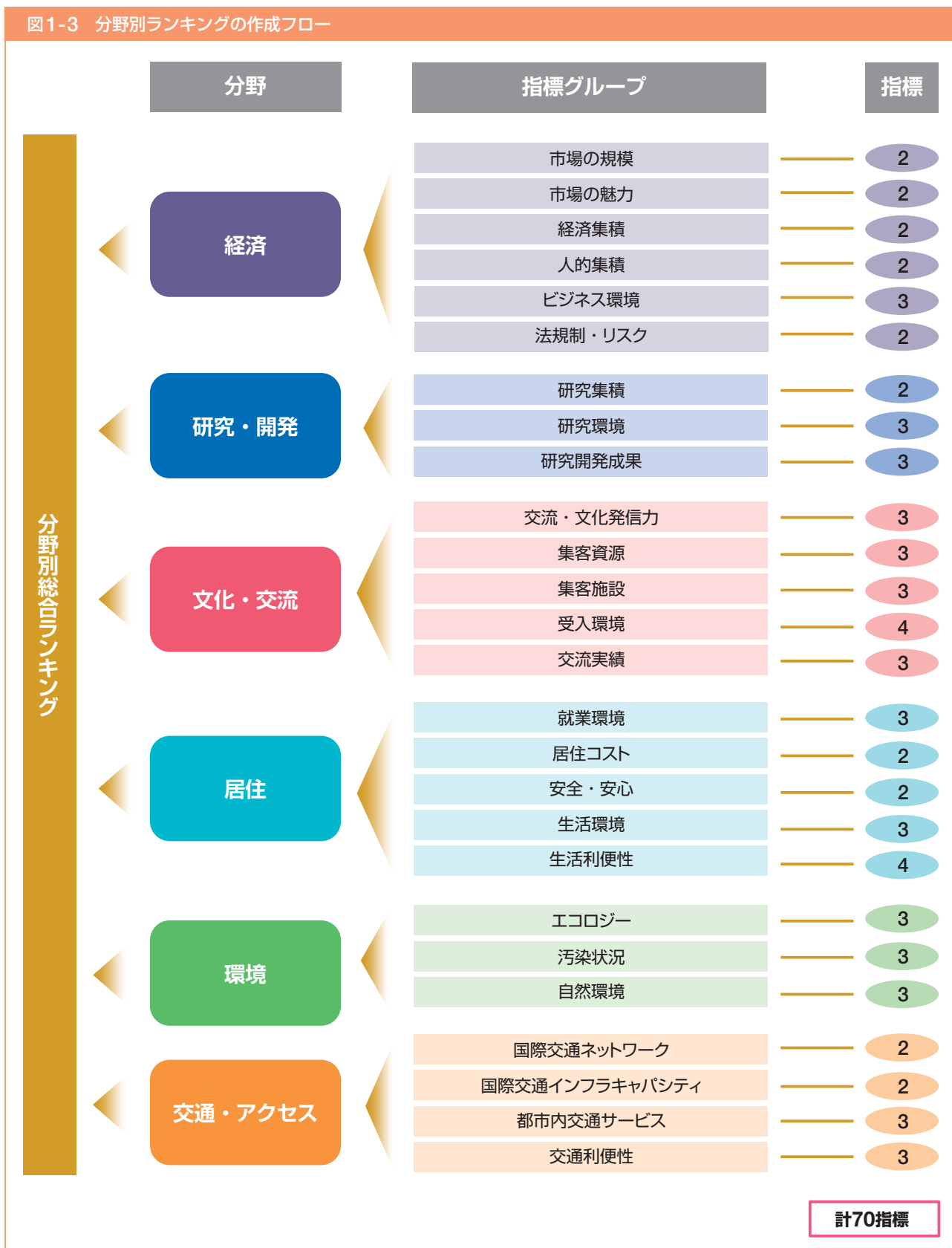


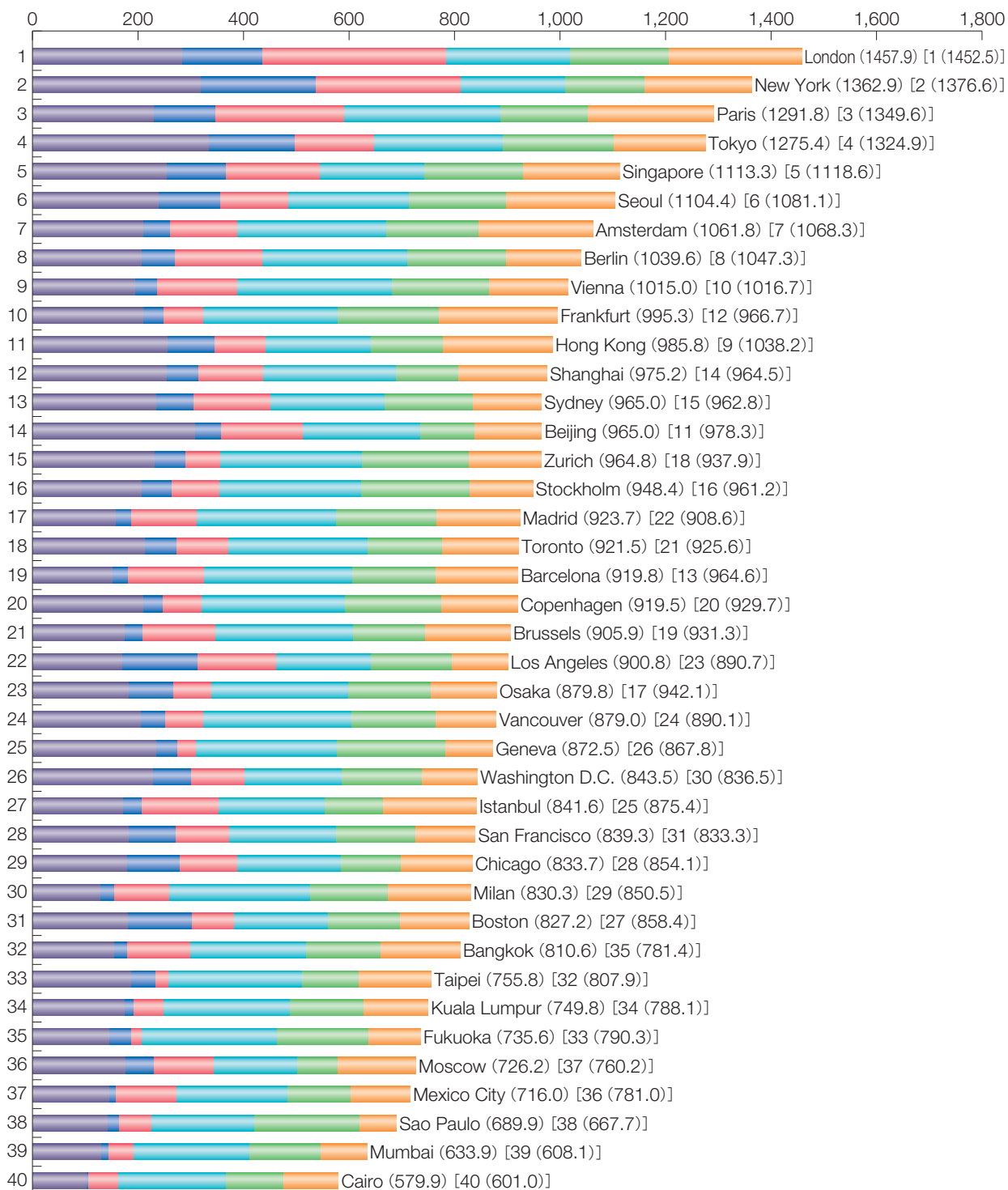
図1-4 アクター別ランキングの作成フロー



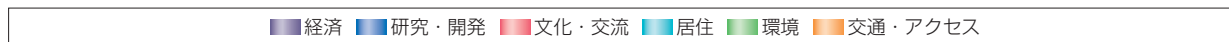
2.GPCI-2013の結果

2-1 分野別総合ランキング

図 2-1 分野別総合ランキング結果



※ []内の数値はGPCI-2012のスコアおよびランキング



2-2

分野別ランキング

表2-1 分野別ランキング

ランク	総合スコア	経済	研究・開発	文化・交流	居住	環境	交通・アクセス
1	London 1457.9	Tokyo 335.0	New York 218.9	London 348.0	Paris 295.6	Tokyo 208.9	London 252.2
2	New York 1362.9	New York 319.5	Tokyo 162.7	New York 273.8	Vienna 293.0	Stockholm 205.3	Paris 240.8
3	Paris 1291.8	Beijing 309.4	London 152.7	Paris 243.9	Amsterdam 283.1	Geneva 203.4	Frankfurt 225.6
4	Tokyo 1275.4	London 284.2	Los Angeles 142.6	Singapore 178.5	Barcelona 281.5	Zurich 200.3	Amsterdam 217.6
5	Singapore 1113.3	Hong Kong 257.0	Boston 121.8	Berlin 166.2	Vancouver 281.2	Sao Paulo 197.1	Hong Kong 209.4
6	Seoul 1104.4	Singapore 255.9	Seoul 117.2	Beijing 155.0	Berlin 275.0	Frankfurt 190.6	Seoul 208.2
7	Amsterdam 1061.8	Shanghai 254.5	Paris 116.6	Vienna 151.9	Copenhagen 271.6	Madrid 189.1	New York 204.3
8	Berlin 1039.6	Seoul 240.0	Singapore 110.8	Tokyo 150.3	Zurich 268.9	Singapore 186.8	Singapore 183.7
9	Vienna 1015.0	Sydney 235.6	Chicago 100.0	Los Angeles 148.9	Stockholm 268.1	London 186.3	Istanbul 178.6
10	Frankfurt 995.3	Geneva 234.8	Hong Kong 89.5	Istanbul 146.4	Geneva 268.1	Berlin 184.5	Tokyo 174.6
11	Hong Kong 985.8	Zurich 232.5	San Francisco 88.6	Sydney 145.7	Milan 266.4	Vienna 182.0	Shanghai 168.5
12	Shanghai 975.2	Paris 231.0	Osaka 83.6	Barcelona 143.4	Toronto 264.2	Seoul 181.6	Brussels 163.0
13	Sydney 965.0	Washington D.C. 229.4	Washington D.C. 71.4	Brussels 137.5	Madrid 263.5	Copenhagen 180.7	Madrid 159.3
14	Beijing 965.0	Toronto 214.3	Sydney 70.3	Seoul 128.3	Brussels 261.4	Fukuoka 173.1	Milan 157.4
15	Zurich 964.8	Amsterdam 211.2	Berlin 63.3	Amsterdam 127.0	Osaka 259.5	Amsterdam 172.5	Barcelona 156.9
16	Stockholm 948.4	Frankfurt 210.4	Shanghai 60.0	Shanghai 123.9	Fukuoka 254.9	Sydney 165.6	Bangkok 151.5
17	Madrid 923.7	Copenhagen 210.3	Toronto 58.8	Madrid 123.9	Frankfurt 254.4	Paris 163.9	Vienna 150.6
18	Toronto 921.5	Berlin 207.6	Zurich 57.9	Bangkok 120.8	Taipei 254.0	Vancouver 158.7	Moscow 149.0
19	Barcelona 919.8	Stockholm 207.4	Stockholm 57.1	Mexico City 114.1	Shanghai 250.5	Barcelona 155.8	Toronto 145.9
20	Copenhagen 919.5	Vancouver 205.5	Moscow 53.5	Moscow 113.2	Tokyo 243.9	Osaka 154.5	Copenhagen 145.5
21	Brussels 905.9	Vienna 196.2	Amsterdam 50.3	Chicago 109.6	Kuala Lumpur 239.1	Los Angeles 151.9	Berlin 143.2
22	Los Angeles 900.8	Taipei 188.1	Beijing 49.0	Milan 105.7	London 234.5	Washington D.C. 150.0	Zurich 139.0
23	Osaka 879.8	San Francisco 183.8	Vancouver 46.4	Washington D.C. 102.2	Seoul 229.1	New York 148.5	Taipei 138.8
24	Vancouver 879.0	Osaka 183.4	Taipei 45.9	San Francisco 100.9	Beijing 222.7	San Francisco 148.1	Chicago 136.2
25	Geneva 872.5	Boston 181.7	Vienna 41.4	Toronto 98.4	Mumbai 219.6	Milan 145.9	Boston 131.8
26	Washington D.C. 843.5	Chicago 179.8	Geneva 40.8	Hong Kong 96.3	Bangkok 218.4	Bangkok 140.4	Sydney 130.7
27	Istanbul 841.6	Moscow 177.4	Fukuoka 40.1	Stockholm 90.3	Sydney 217.1	Toronto 139.8	Beijing 128.5
28	San Francisco 839.3	Kuala Lumpur 174.9	Frankfurt 38.5	Boston 80.0	Mexico City 210.2	Kuala Lumpur 137.0	Osaka 125.6
29	Chicago 833.7	Brussels 174.9	Copenhagen 36.8	Frankfurt 75.8	Cairo 205.0	Boston 134.8	Kuala Lumpur 123.9
30	Milan 830.3	Istanbul 172.4	Brussels 35.0	Copenhagen 74.7	San Francisco 202.8	Brussels 134.1	Stockholm 120.1
31	Boston 827.2	Los Angeles 171.4	Istanbul 34.6	Osaka 73.2	Istanbul 200.9	Hong Kong 133.6	Vancouver 115.3
32	Bangkok 810.6	Madrid 158.1	Barcelona 30.5	Vancouver 72.0	Hong Kong 200.0	Mumbai 133.6	San Francisco 115.1
33	Taipei 755.8	Bangkok 155.8	Madrid 29.9	Zurich 66.3	New York 197.9	Mexico City 119.4	Mexico City 113.3
34	Kuala Lumpur 749.8	Barcelona 151.7	Milan 26.3	Sao Paulo 61.7	Singapore 197.7	Shanghai 117.6	Los Angeles 106.7
35	Fukuoka 735.6	Fukuoka 146.9	Bangkok 23.6	Kuala Lumpur 57.2	Chicago 195.2	Chicago 112.8	Washington D.C. 106.3
36	Moscow 726.2	Mexico City 146.6	Sao Paulo 21.3	Cairo 56.2	Sao Paulo 194.5	Istanbul 108.6	Cairo 105.9
37	Mexico City 716.0	Sao Paulo 143.8	Kuala Lumpur 17.7	Mumbai 49.0	Washington D.C. 184.2	Cairo 106.4	Fukuoka 99.1
38	Sao Paulo 689.9	Mumbai 131.6	Mumbai 12.4	Geneva 34.2	Los Angeles 179.2	Taipei 105.1	Geneva 91.2
39	Mumbai 633.9	Milan 128.7	Mexico City 12.4	Taipei 23.9	Boston 177.0	Beijing 100.3	Mumbai 87.8
40	Cairo 579.9	Cairo 103.2	Cairo 3.3	Fukuoka 21.5	Moscow 158.1	Moscow 75.0	Sao Paulo 71.6

2-3

アクター別ランキング

表2-2 アクター別ランキング

ランク	経営者	研究者	アーティスト	観光客	生活者
1	London	New York	Paris	London	Paris
2	Singapore	Tokyo	New York	New York	London
3	Shanghai	London	Berlin	Paris	New York
4	Beijing	Paris	London	Shanghai	Tokyo
5	Hong Kong	Los Angeles	Vienna	Istanbul	Zurich
6	New York	Boston	Tokyo	Barcelona	Vienna
7	Seoul	Seoul	Barcelona	Beijing	Berlin
8	Paris	Singapore	Los Angeles	Berlin	Frankfurt
9	Tokyo	San Francisco	Amsterdam	Tokyo	Stockholm
10	Zurich	Sydney	Beijing	Singapore	Amsterdam
11	Amsterdam	Washington D.C.	Madrid	Vienna	Milan
12	Berlin	Chicago	Mexico City	Bangkok	Copenhagen
13	Geneva	Osaka	Shanghai	Amsterdam	Geneva
14	Vienna	Beijing	Chicago	Madrid	Washington D.C.
15	Stockholm	Hong Kong	Milan	Hong Kong	Madrid
16	Kuala Lumpur	Berlin	Toronto	Seoul	Vancouver
17	Sydney	Zurich	Vancouver	Toronto	Barcelona
18	Vancouver	Vienna	Brussels	Brussels	Osaka
19	Toronto	Amsterdam	Frankfurt	Frankfurt	San Francisco
20	Taipei	Vancouver	San Francisco	Milan	Boston
21	Istanbul	Stockholm	Stockholm	Sydney	Brussels
22	Frankfurt	Toronto	Copenhagen	Chicago	Toronto
23	Copenhagen	Copenhagen	Washington D.C.	Vancouver	Hong Kong
24	Barcelona	Geneva	Bangkok	Mexico City	Seoul
25	Boston	Moscow	Istanbul	Cairo	Sydney
26	Brussels	Brussels	Cairo	Zurich	Shanghai
27	Madrid	Frankfurt	Osaka	San Francisco	Beijing
28	Bangkok	Shanghai	Sydney	Osaka	Singapore
29	Washington D.C.	Mexico City	Mumbai	Boston	Fukuoka
30	Osaka	Milan	Sao Paulo	Washington D.C.	Taipei
31	Chicago	Fukuoka	Fukuoka	Stockholm	Los Angeles
32	San Francisco	Taipei	Kuala Lumpur	Copenhagen	Chicago
33	Fukuoka	Madrid	Seoul	Los Angeles	Mexico City
34	Los Angeles	Barcelona	Zurich	Taipei	Moscow
35	Mumbai	Bangkok	Moscow	Kuala Lumpur	Sao Paulo
36	Milan	Istanbul	Boston	Moscow	Bangkok
37	Moscow	Sao Paulo	Taipei	Mumbai	Istanbul
38	Sao Paulo	Kuala Lumpur	Geneva	Fukuoka	Kuala Lumpur
39	Cairo	Mumbai	Singapore	Geneva	Mumbai
40	Mexico City	Cairo	Hong Kong	Sao Paulo	Cairo

2-4 東京の強み・弱みの分析

東京の強みとしては、例年どおり、経済分野の「市場の規模」、「経済集積」、「人的集積」、研究・開発分野全般、居住分野の「生活利便性」、環境分野の「エコロジー」、交通・アクセス分野の「都市内交通サービス」が挙げられる。一方、経済分野の「市場の魅力」、「法規制・リスク」、文化・交流分野の「集客資源」、居住分野の「居住コスト」、交通・ア

クセス分野の「国際交通ネットワーク」、「交通利便性」は昨年と同様、東京の弱みとして残った。偏差値別の指標数を見ると、東京は偏差値70以上の強みを有する指標がトップ4都市の中で9つと最も少なく、これが4位にとどまっている要因の一つとなっている。

図2-2 東京の指標グループ別の偏差値

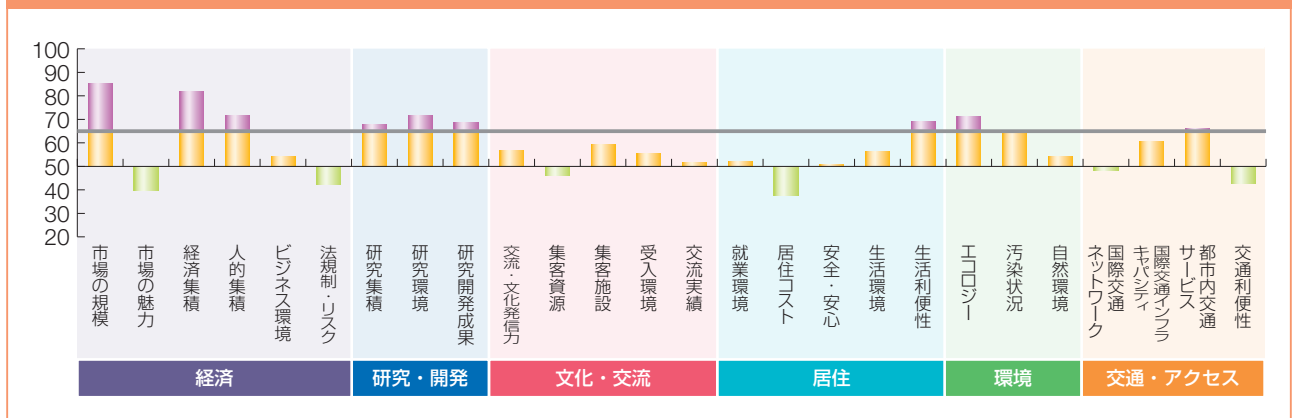
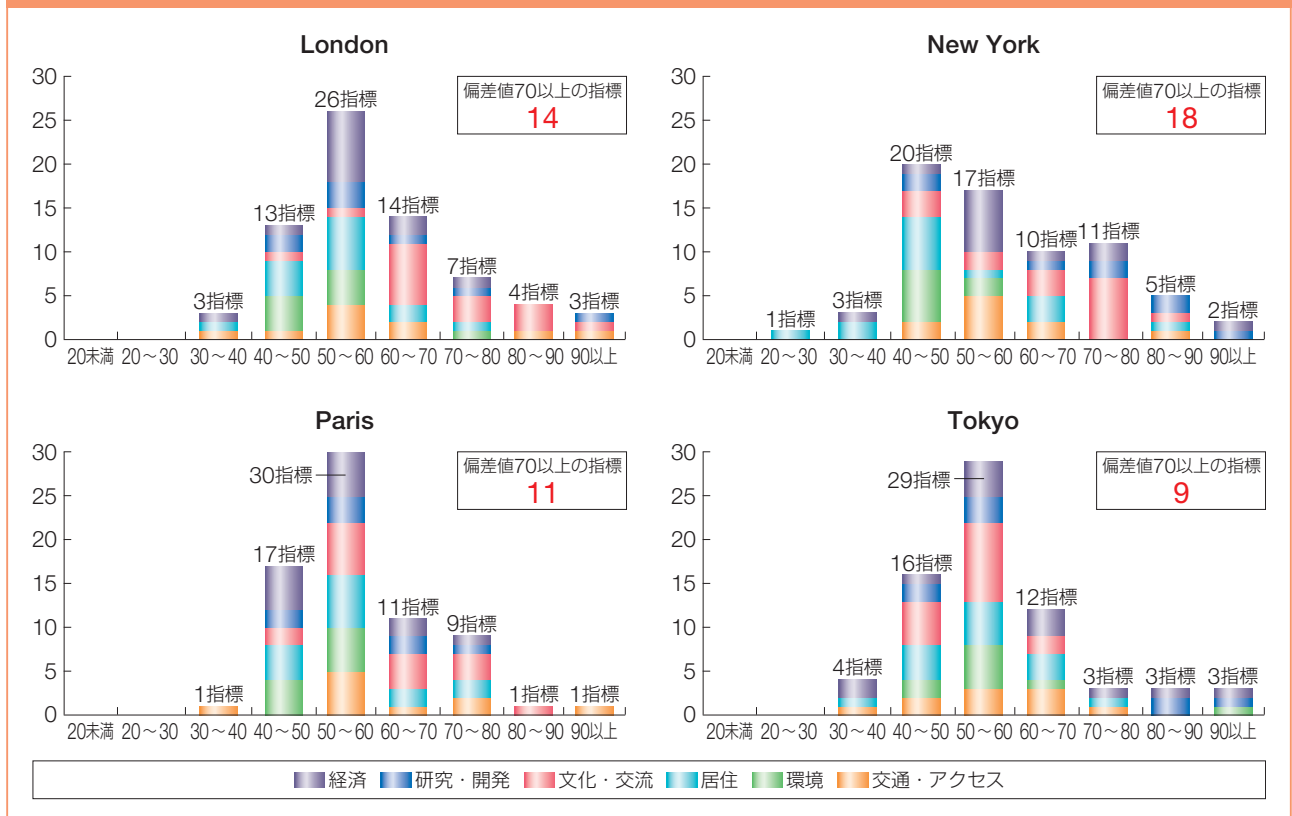


図2-3 トップ4都市の偏差値別の指標数



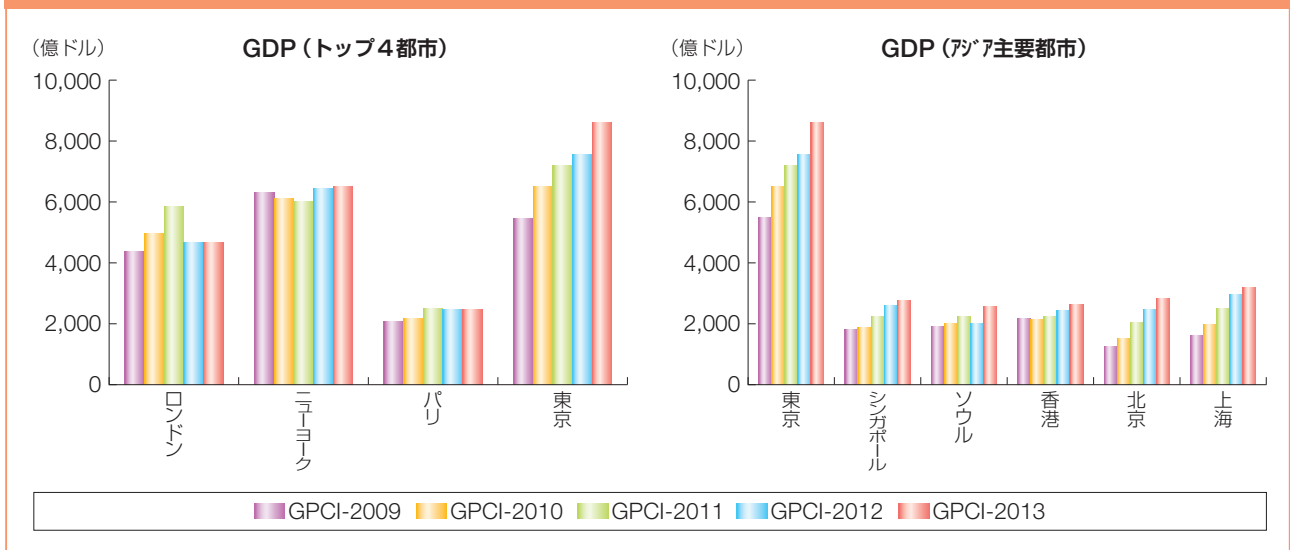
2-5 GPCI経年変化

1) GDP

トップ4都市、アジア主要都市と比較した場合、東京が依然として優位となっている。ただし、この結果は、円からドル換算する際に、円高時点の為替を利用しており、

その影響を受けていることに注意が必要である。また、北京、上海はGDPの伸びが顕著となっているが、GPCI-2012からGPCI-2013にかけては、これまでの対前年成長率と比較すると低調となっている。

図2-4 GDP 経年変化

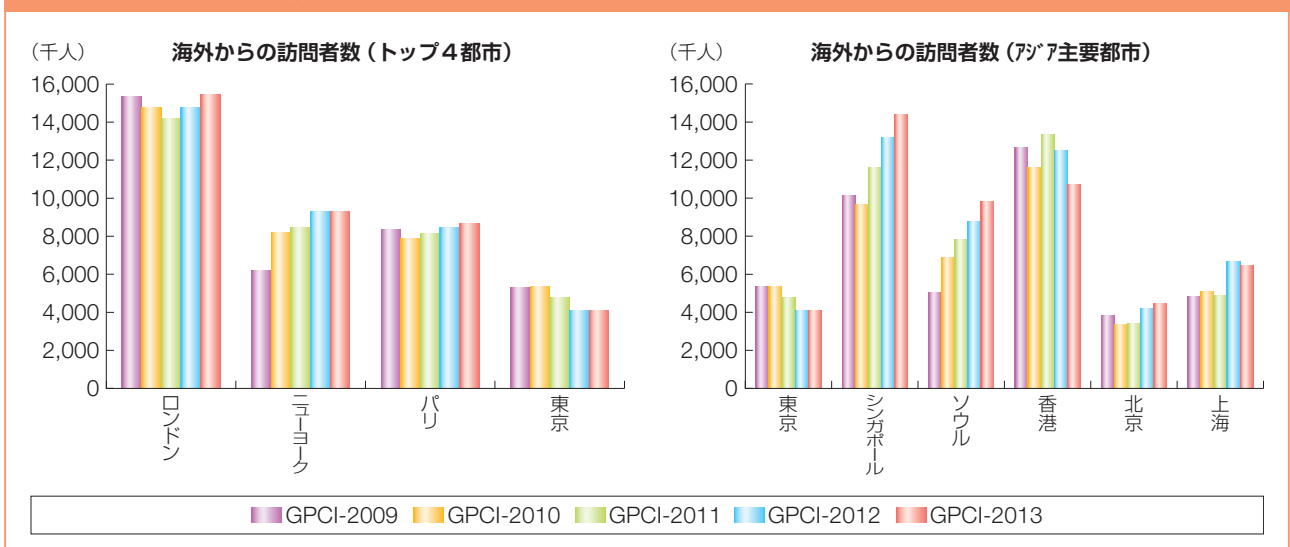


2) 海外からの訪問者数

トップ4都市、アジア主要都市の中で東京は最下位となっている。また、トップ4都市の中では五輪を開催した

ロンドンが復調傾向にあり、アジア主要都市の中ではシンガポール、ソウルが順調に数値を伸ばしていることがわかる。

図2-5 海外からの訪問者数 経年変化



3. 都市の感性価値

GPCIでは都市の“総合力”を評価するために、定量・定性両面から70の指標を選定している。これらの指標を用いて、一部アンケートに基づく定性的指標を除き、いわば都市の物的魅力を評価している。

一方で、都市で活躍するアクターの視点から見ると、必ずしも都市の魅力は物的なもののみに限らない。都市にいて、快適さを感じる、わくわくする、誇りに思う等の感情を想起させられるのは、各都市が「人間の感性に訴える力」を持っているからだと考えられる。この力

を「感性価値」と定義し、GPCIの対象都市のうち10都市(バルセロナ、ロンドン、パリ、ウィーン、イスタンブール、シンガポール、北京、ソウル、東京、ニューヨーク)を対象として、今後の都市力を表現する新たな視点で評価を試みた。

なお、「感性価値」の観点から新しい評価を行うための評価フレームとして、「量・質の特性」と「価値観」を設定した。

量・質の特性: 都市における特性を、空間構成(Spatial Setting)、活動(Activities)、空間運営(Spatial Management)の観点から評価

▶ **空間構成(Spatial Setting):**

都市空間を構成する様々な要素(社会基盤、住宅、商業施設、自然環境、災害リスクなど)の配置、地理的条件

▶ **活動(Activities):**

都市空間における生活、ビジネス、移動、娯楽、情報通信など、人間の活動や消費行動によって生じる価値

▶ **空間運営(Spatial Management):**

ある空間構成を持つ都市において行われる活動の促進と円滑化を実現するための管理・運営能力

価値観: 都市における特性についてアクターがどのように捉えるかを、普遍的な価値(Universal Value)、地域性・文化背景に左右される価値(Regional & Cultural Value)、個人の価値観に左右される価値(Individual Value)の観点から評価

▶ **普遍的な価値(Universal Value):**

住んでいる地域や文化背景、性別・年齢・職業等の個人属性によらず、どんな人にも感じられる価値

▶ **地域性・文化背景に左右される価値(Regional & Cultural Value):**

住んでいる地域や文化背景の影響を受けた人が感じる特有の価値

▶ **個人の価値観に左右される価値(Individual Value):**

それぞれの人が持つ価値基準により判断される価値

図3-1 感性価値の評価イメージ(GPCIとの違い)

GPCI

6分野

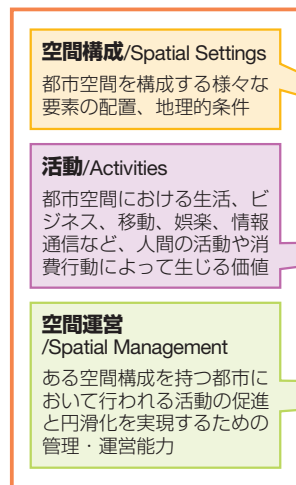


5アクター

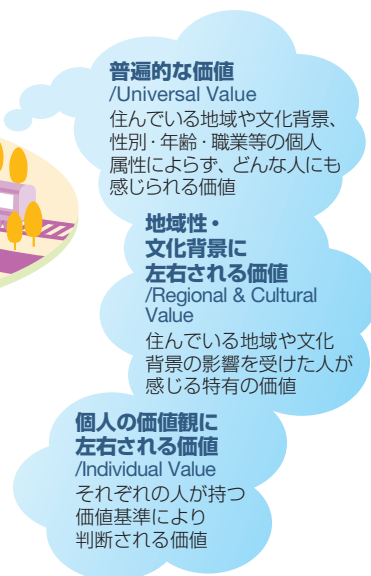


感性価値

量・質の特性



価値観



以下、GPCIの中のいくつかの指標グループを対象に、GPCIの評価軸と感性価値の評価軸を対比させながら分析を加える。

1)「市場の魅力」を活動の観点から評価

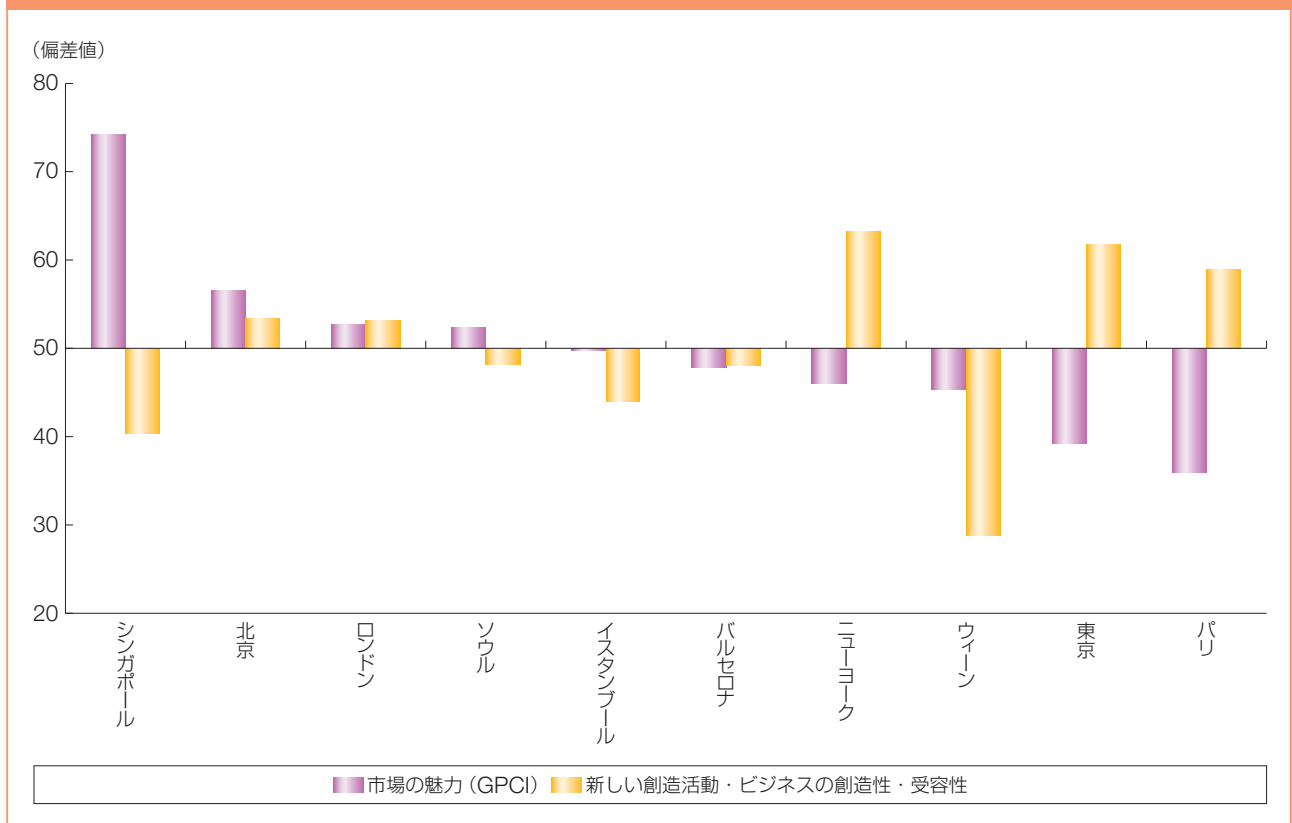
GPCIでは「市場の魅力」を、「GDP成長率」「経済自由度」の2指標により、都市における経済の成長性と市場環境の観点から評価しているが、感性価値では「新しい創造活動・ビジネスの創造性・受容性^(注)」という指標を用いて、都市活動において新たな価値が生じているかどうかを評価する。

シンガポールは、「市場の魅力(GPCI)」の評価は突出して高いが、「新しい創造活動・ビジネスの創造性・受容性(感性価値)」の評価は低い。高い経済成長と市場環境

の良好さが強みとなっているが、新しい創造活動・ビジネスが生まれ、受け容れられるかという側面からはまだまだ解決すべき課題がある都市であるといえる。

一方で、ニューヨークや東京、パリは「市場の魅力(GPCI)」の評価は低い、「新しい創造活動・ビジネスの創造性・受容性(感性価値)」の評価は高い。これらの都市は成熟都市であるため特に「GDP成長率」が低く経済の成長性では他都市に劣るが、新しい活動・ビジネスを生み出すという観点では魅力が高く、依然として根強い力を維持しているといえよう。

図3-2 「市場の魅力(GPCI)」と「新しい創造活動・ビジネスの創造性・受容性(感性価値)」



注)「市場の魅力(GPCI)」の偏差値順に都市を掲載。

「市場の魅力(GPCI)」の偏差値は、GPCI-2013における当該指標グループスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

「新しい活動・ビジネスの創造性・受容性(感性価値)」の偏差値は、各都市の居住者を対象として森記念財団が実施した「都市の魅力に関するアンケート」の「新しい文化・芸術・娯楽・ビジネスの創出」「新しい文化・芸術・娯楽・ビジネスに対する受容性」に関する回答データから算出したスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

2)「集客施設」を空間運営の観点から評価

GPCIでは「集客施設」を、「劇場・コンサートホール数」「美術館・博物館数」「スタジアム数」の3指標を用い、施設の数が多いかどうかで「集客施設」の充実度を評価しているが、感性価値では「娯楽等の多様性^(注)」という指標により、空間運営の観点から娯楽、レクリエーション、街並み等の多様性を評価する。

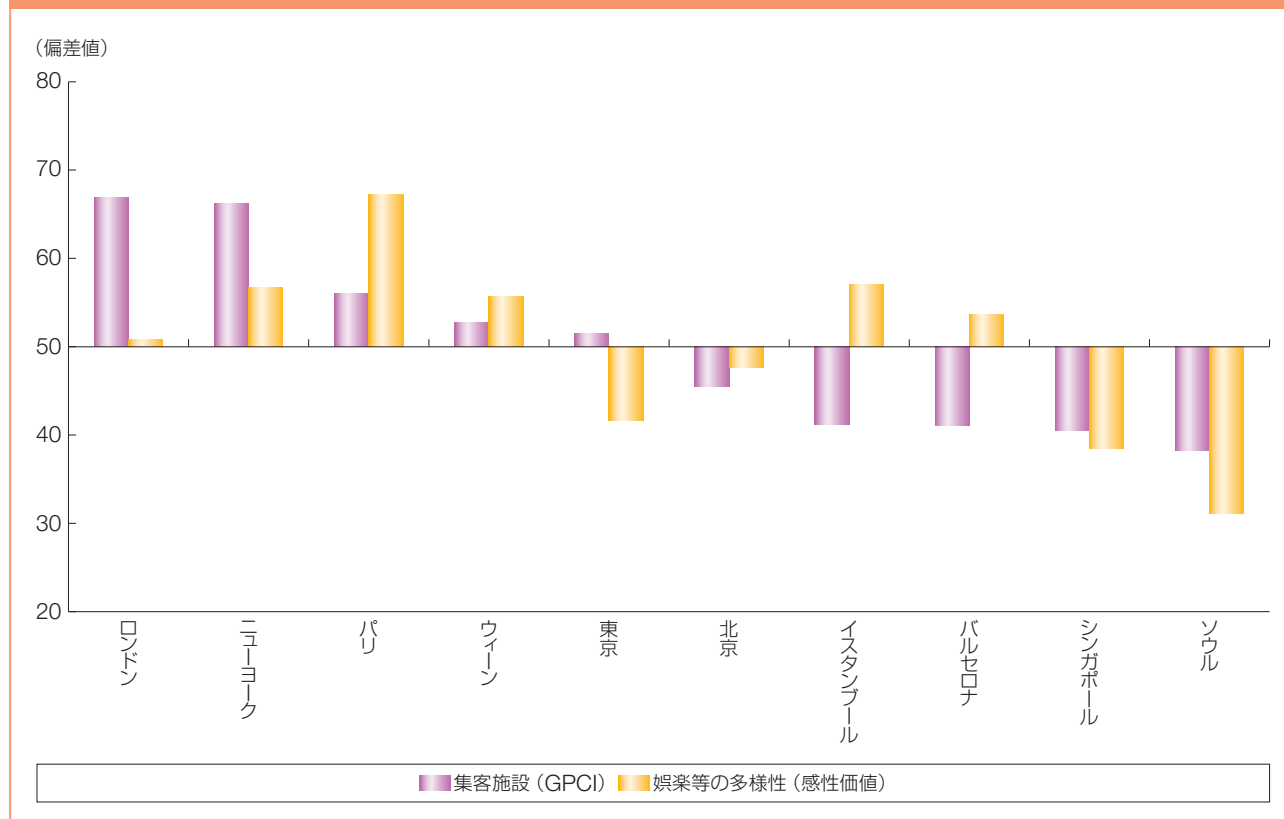
「集客施設(GPCI)」では、ロンドンとニューヨークが僅差で並び、やや間を空けてパリが次ぐ形だが、「娯楽等の多様性(感性価値)」を見ると、パリがロンドン、ニューヨークを大きく上回る。パリは集客施設が多いことに加

えて、空間運営の観点から多様性も極めて高いことが分かる。

イスタンブールとバルセロナは、「集客施設(GPCI)」については10都市の中では評価が低い「娯楽等の多様性(感性価値)」についてはパリやニューヨークに次ぐ評価で、強みとなっている。

一方で、東京、北京、シンガポール、ソウルなどのアジア都市は、「娯楽等の多様性(感性価値)」の評価が低い傾向がある。東京は、集客施設の数は一程度度の評価を得ているが、多様性に乏しく弱みとなっている。

図3-3 「集客施設(GPCI)」と「娯楽等の多様性(感性価値)」



注)「集客施設(GPCI)」の偏差値順に都市を掲載。

「集客施設(GPCI)」の偏差値は、GPCI-2013における当該指標グループスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

「娯楽等の多様性(感性価値)」の偏差値は、各都市の居住者を対象として森記念財団が実施した「都市の魅力に関するアンケート」の「娯楽・レクリエーションの多様性」、「季節による娯楽・レクリエーションの多様性」、「街並みの多様性」に関する回答データから算出したスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

3)「国際交通ネットワーク」を空間運営の観点から評価

GPCIでは「国際交通ネットワーク」を、「国際線直行便就航都市数」「国際線直行貨物便就航都市数」の2指標により、都市間ネットワークがいかに充実しているかの観点から評価しているが、感性価値では「空港における定時運航率^(注)」という指標により、空間運営の観点からネットワークの運営管理能力の高さを評価する。

ロンドン、イスタンブール、ソウル、パリは、「国際交通ネットワーク(GPCI)」の評価は高いが、「空港における定時運航率(感性価値)」の評価は低い。国際線のネット

ワークは充実しているが、運行の定時性という観点で見ると弱みとなっている。

一方で、シンガポール、ウィーン、東京、バルセロナは、「国際交通ネットワーク(GPCI)」についてはロンドン等と比較すると評価が低いが、「空港における定時運航率(感性価値)」の評価は高い。特に東京は、対象10都市の中では国際線のネットワークはさほど充実していないものの、「空港における定時運航率(感性価値)」が最も高く、優れた運営能力を発揮することで定時性が確保されている。

図3-4 「国際交通ネットワーク(GPCI)」と「空港における定時運航率(感性価値)」



注)「国際交通ネットワーク(GPCI)」の偏差値順に都市を掲載。

「国際交通ネットワーク(GPCI)」の偏差値は、GPCI-2013における当該指標グループスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

「空港の定時運航率(感性価値)」の偏差値は、Flight Stats On-time Report May, 2013のデータから算出したスコアの偏差値(10都市における偏差値)を示している。

2013年10月

編集・発行 一般財団法人 森記念財団

[本件に対するお問い合わせ先]

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

三輪、廣田、浜田

[住 所] 〒107-6004

東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル

[電 話] 03(6406)6800(代表)

[E-mail] gpci@mori-m-foundation.or.jp

Global Power City Index 2013

1 London

2 New York

3 Paris

4 Tokyo

5 Singapore

6 Seoul

7 Amsterdam

8 Berlin

9 Vienna

10 Frankfurt

11 Hong Kong

12 Shanghai

13 Sydney

14 Beijing

15 Zurich

16 Stockholm

17 Madrid

18 Toronto

19 Barcelona

20 Copenhagen

21 Brussels

22 Los Angeles

23 Osaka

24 Vancouver

25 Geneva

26 Washington D.C.

27 Istanbul

28 San Francisco

29 Chicago

30 Milan

31 Boston

32 Bangkok

33 Taipei

34 Kuala Lumpur

35 Fukuoka

36 Moscow

37 Mexico City

38 Sao Paulo

39 Mumbai

40 Cairo